

## 論文本編の書式について—明朝 12pt—

### 1. 基本事項

用紙はA4サイズとし、余白は上下左右とも25mmとします。ページ下部中央にページ数を打ってください。以下の書式にしたがい、図表や注釈、参考文献リストを含めた全体を5枚以上10枚以内に収めてください。

#### 1. 1 タイトル

第1行目に論文タイトルを30字以内で記してください(明朝12pt)。氏名や所属を本編中に記さないでください。

#### 1. 2 本文

本文のフォントは明朝11ptとし、1ページあたり1300字から1400字程度になるように調整してください。段組は1段を基本としますが、図表を挿入した箇所についてはこの限りではありません。章、節は適宜たてていただいて構いません。

#### 1. 3 注釈と参考文献

引用したり参照したりした文献は、論文末尾にまとめて記してください。引用のしかた、参考文献リストの書き方などは、戸田山和久(2002)をはじめ、種々の論文執筆のための書籍<sup>1)</sup>に記載されていますので、適宜参照してください。なお、注釈を付す場合は、本文と参考文献の間においてください。

### 2. 図表について

図表は本文中に貼り込んでください。その際、全体のファイルサイズが大きくなりすぎないように注意してください。上限は2メガバイトが目安です。

図表にはタイトルと図表番号を付してください(ゴシック10pt)。図1に例を示します。

審査員にはモノクロ印刷した論文が配布されます。カラーの図表を使用する際は、モノクロ印刷時の見え方にご留意ください。



図1 タイトル(ゴシック10pt)

### 3. 応募の際の注意

応募の際は、論文本編の電子ファイル(WordまたはPDF)と応募用紙の電子ファイル(同)の2点を同時送信してください。ファイル名は自由ですが、論文タイトルや自身の名前などを入れ、他の応募者の作品と区別しやすいようにしてください。送信先はinfo@cshe.nagoya-u.ac.jpです。

## 注釈

- 1) 以下の参考文献は、論文の書き方に関する書籍の一部です。附属図書館や高等教育研究センター（文系総合館 5階）で閲覧できます。

## 参考文献

- 荒木晶子・向後千春・筒井洋一、2000年、『自己表現力の教室』情報センター出版局。
- 小笠原喜康、2002年、『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書。
- 梅棹忠夫、1969年、『知的生産の技術』岩波新書。
- 木下是雄、1994年、『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫。
- 河野哲也、2002年、『レポート・論文の書き方入門』第三版、慶応義塾大学出版会。
- 佐藤望編著、2006年、『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会。
- 戸田山和久、2002年、『論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス。
- 樋口裕一、2002年、『やさしい文章術—レポート・論文の書き方』中公新書ラクレ。